

NIIGATA MITEARUKI

にいがた みてある記

国際課 今井 徹
TORU IMAI

シリーズ

87

弥彦公園・弥彦神社



弥彦菊まつり



弥彦公園内の噴水



観月橋



並木道

北陸自動車道三条燕ICを降りて国道289号を西側に向かって走り、その後県道29号を道なりに行ったところにある弥彦公園。公園の広さは16万平方メートルにも及ぶという。その弥彦公園内にもみじ谷と呼ばれる場所がある。名前の通り紅葉が非常にきれいな場所

で、毎年秋になると県外からも多数観光客が訪れる紅葉の名所である。ここではカエデ、ナナカマド、ケヤキ、ウルシの木が見られる。公園内には溪流、池、噴水、トンネルなど見どころが多い。公園に入り十数メートルの石造りのトンネルを抜けると色とりどりの景色が広がっている。しばらく歩くと紅葉した木々に囲まれた趣のある噴水のある池があり、し

ばらく立ち止まってしまうほど心が落ち着く場所だ。そのまま歩き続けると園内で最も美しい場所と言われる観月橋がある。観月橋は昔の木橋を再現した朱塗りの橋で、紅葉の中で見る観月橋は周りの葉の色と相まって絶景である。

日も落ちてきて17時を回ると公園内各所がライトアップされた。日が完全に沈むと暗闇の中にライトアップされた木々が照らし出される。昼間に見えていた余計なものは見えなくなり、紅葉した木木だけが暗闇の中に映し出され美しい光景である。

また、弥彦公園の近くにある弥彦神社では毎年11月になると菊まつりが開催されていて、私が行った時に偶然にも菊まつりも見

まわることができた。菊祭りは今年で49回目の開催で、菊4000鉢にものぼる県下最大の大展覧会だという。全国の景勝地を模して造る恒例の大風景花壇の今年のテーマは新潟市に架かる万代橋であった。昨年は伊勢の二見浦、一昨年は金沢の兼六園だったが今年は大観光交流年に位置付けられていることから県外客に新潟をPRしようと選ばれたそう

だ。弥彦にはこの度はじめて来たが、毎年6月下旬にこの弥彦公園にてホテルまつりを開催していると聞いた。そちらも非常に綺麗で見物らしいので、その時期になったらまた来たいと思いつつ長岡への帰路についた。

編集後記

高い志を持ち、希望に燃え、意欲に満ちた技大留学生たちの姿を少しでもお伝えすることができたでしょうか。遠く異国の地で、勉強にまた様々な活動に励む彼／彼女たちを、大学は教育・研究面だけでなく生活面でもサポートしています。国境や言語の違いが障害になることなく自分の学びたいことが世界のどこでも学べるという時代は、きっと人々の争いのない、平和な時代に違いありません。そんな時代の足音がすぐそこに聞こえてきませんか。私たちが力を合わせ、そんな時代の扉を開けることができれば嬉しいですね。

本学のロゴマークが制定されました。多くの皆さんにいつまでも愛されますよう。

VOSの由来 本学のモットーである、Vitality, Originality, Servicesの頭文字をとって、本学初代学長の故川上正光氏により名付けられました。



VOS NO.155 [平成22年1月号]

編集発行 長岡技術科学大学広報委員会[総務部 総務課]

◎本誌に対するご意見等は下記までお寄せ下さい。

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1

Tel.0258-47-9209 Fax.0258-47-9000

E-mail : skoho@jcom.nagaokaut.ac.jp URL : http://www.nagaokaut.ac.jp/

VOS

2010
January

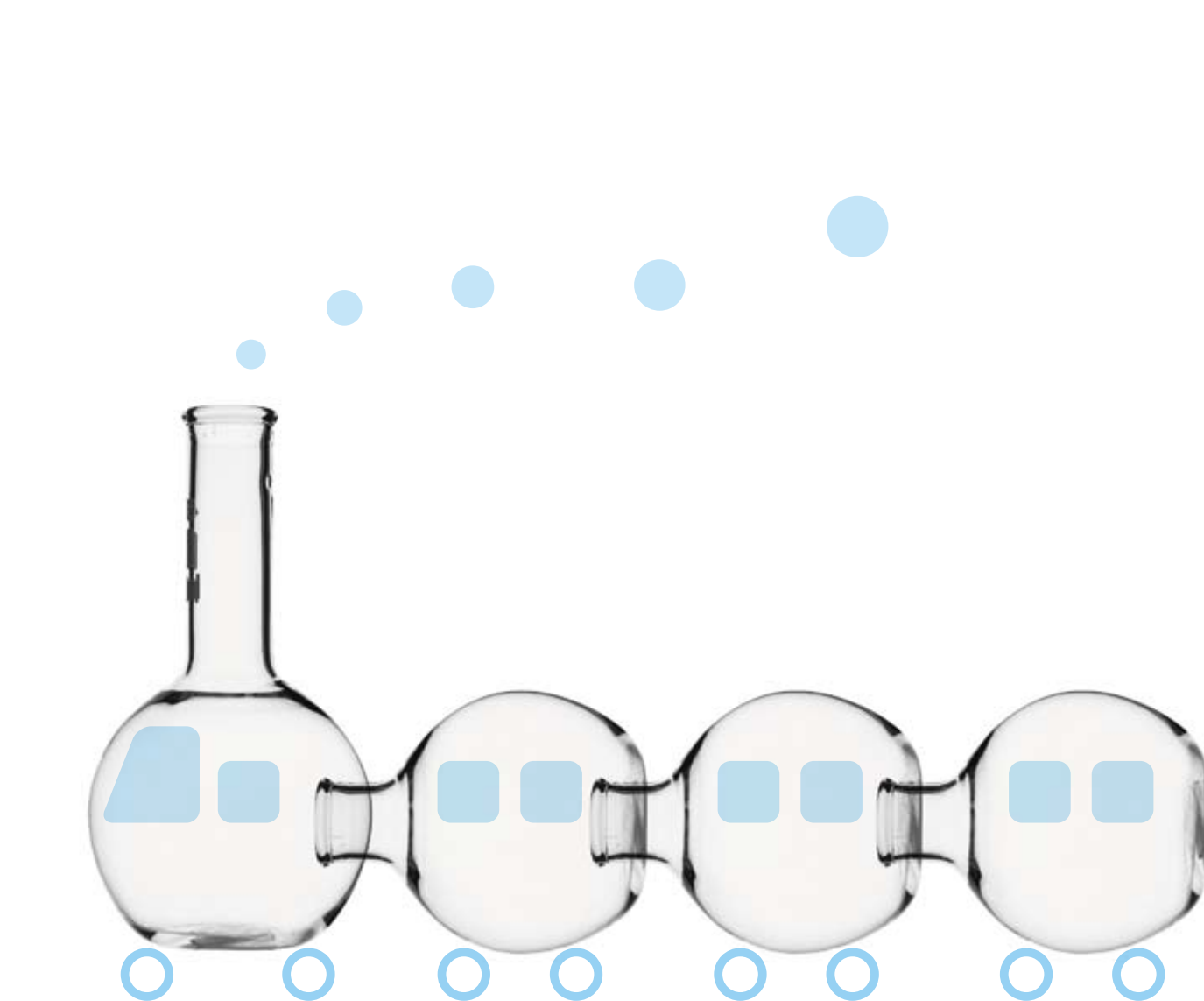
NO.155

Nagaoka University of Technology

VOS
VITALITY
ORIGINALITY
AND
SERVICES
長岡技術科学大学 広報



NO.155
2010.January



特集 技大の留学生

CONTENTS

02_ 特集:技大の留学生

12_ 学士力の探求

14_ 長岡の歴史／トピックス

15_ 新しいロゴマークの制定について

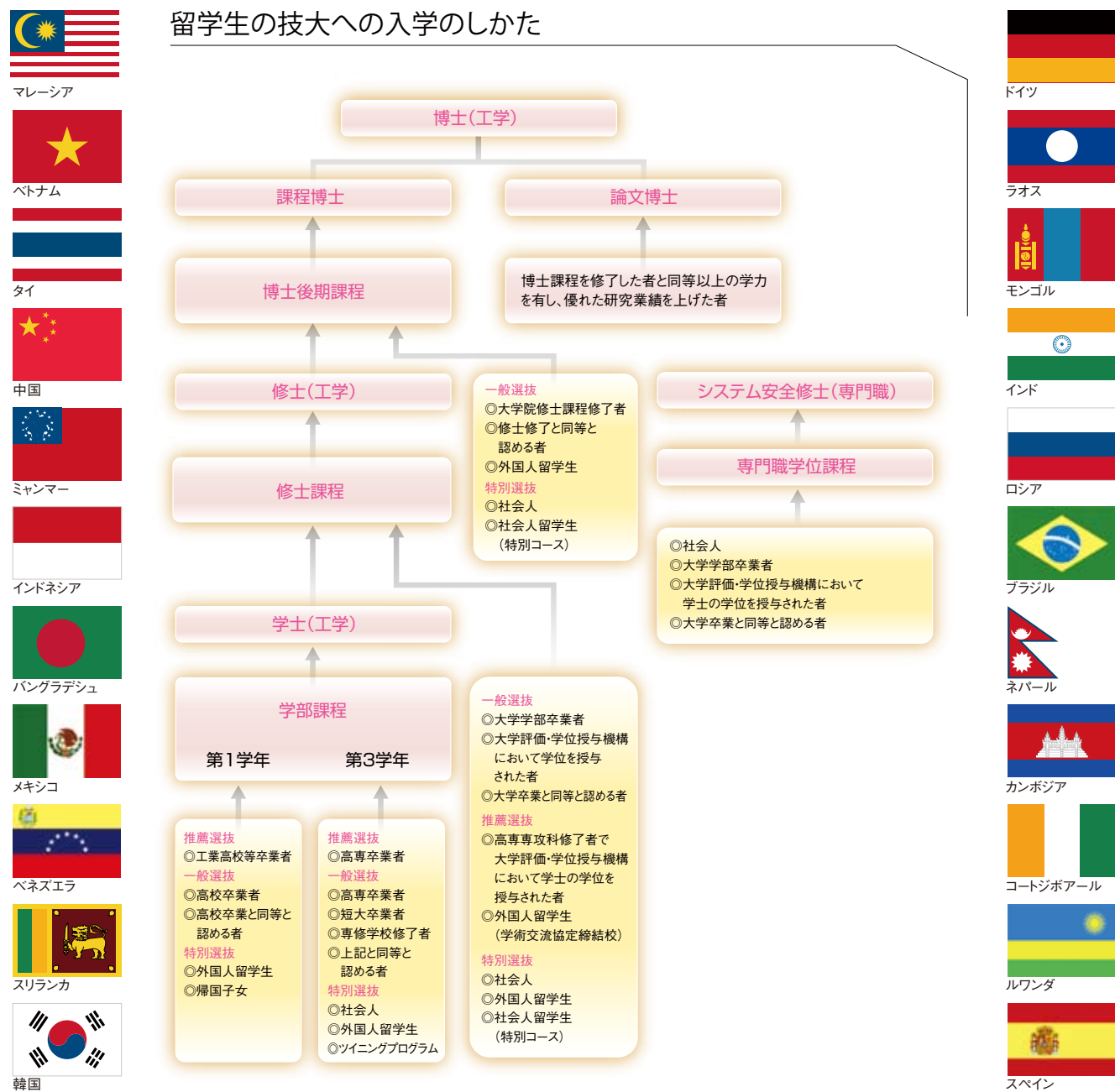
16_ にいがたみてある記／編集後記

技大ではいま、どれくらいの数の留学生が学んでいると思いますか？学部生と大学院生（修士・博士）合わせて技大の全学生数が2,291人、そのうち229人、ほぼ1割が留学生です。そのほかに研究生や聴講生などを加えると、留学生は全部で285人。出身国・地域数は、東南アジア、南米を中心に22にものぼります。その一人一人が将来への夢を持ち、大きな志を抱いて、日本人学生とともに学生生活を送っています。

今号のVOSは、そんな技大の留学生たちにスポットライトを当てます。

留学生の技大への入学には、1年生からと3年生から、それに大学院の修士から、博士からと、大きく4つの道筋があります。下の図にあるように、学部では特別選抜試験に合格した留学生とともに、3年生へは、高専・専修学校などを卒業した留学生（一般選抜）と各国のツィニングプログラム生（特別選抜）も入学します。さらに、大学院では、新たに社会人留学生特別コースと、学術交流協定締結校からの推薦が加わります。また、はじめは本学の研究生となって、それから大学院に進学する留学生もいます。このように、いくつもの道筋があることがわかっていただけるでしょう。技大は、日本で学びたいと考える海外の学生、社会人に、こういった様々な道筋を準備し、その希望をかなえる手助けをしているのです。

技大で学ぶ留学生、また技大から巣立っていった留学生は、どんなことを経験し、どんなふう to 成長しているのでしょうか。その姿をこれからご紹介します。



ツィニングプログラムは、留学生が日本の大学の学部3年に直接編入できる道を開いた制度です。プログラムに参加する各国の出身大学で2年半の前期教育を受ければ、日本に来てからの一定期間の日本語教育を必要とせず、そのまま2年間の後期教育(学部3,4年)に接続します。国立大学としては全国で本学が最初にスタートさせました。本学は、ベトナム、マレーシア、中国、メキシコの合わせて6大学とこのプログラムを進めています。



機械創造工学専攻1年
ギェム ティ ラン アイン
—
NGHIEM THI LAN ANH

ベトナム 出身

ツィニングプログラムのおかげで

高校卒業後、大学に進学するのはベトナムの常識ですが、技術に大変興味を持った私には、技術が世界一の日本に留学し、習得した知識を活かして国の発展に貢献したいという夢がありました。しかし、その夢を現実にするためには、従来の留学制度で見ると、費用と時間がかかるので抵抗がありました。その時に、親友が勧めてくれたハノイ工科大学のツィニングプログラムは、前期教育を母国で受けることによって費用が半減し、さらに事前の日本語学習期間が不要になり、留学期間が短縮されるというメリットがあるため、私はこのプログラムを選びました。前期の2年半、普通のハノイ工科大学と変わらない基礎科目数を受けると、週に17時間日本語の授業があったため大変でしたが、長岡技大の編入時にはとても役立ちました。

長岡技大では2年間学び、卒業後岡山県の会社に就職して1年半勤務しました。そして、平成21年9月に大学院へ進学するために長岡技大に戻ってきました。学校での勉強や研究だけではなく、ベトナム人留学生、研究室の皆さん、そして日本人や他国の友達との交流もでき、キャンパス生活を毎日楽しんでいました。今後は、日本または長岡技大での経験を生かして、ツィニングプログラムの後輩学生の支援と研究に役立ち、帰国後は国の発展に貢献していきたいです。また、帰国後も日本語能力をより向上させ、日本のことを国の皆に知ってもらえるように努力し、日越関係強化と国際平和に役立てていきたいと思っています。



4年のポスター発表(2007年)



就職先会社でのベトナム出張(2008年)



技大祭2009(2009年)



プログラム2期生とホストファミリーの初めての懇親会(2006年)

実務訓練は、ほかのどの日本の大学もまねのできない、充実した企業インターンシップ制度です。これまでの30年の実績の上に築かれた企業との信頼関係を基礎に、4年生の9月以降、約5か月間の長期にわたる研修は、実際に日本企業のスタッフの一員として働く貴重な機会となります。大学院に進学する学生は必ず派遣されることになっています。



MESSAGE

02

電気電子情報工学課程4年

洪 乗辰

— HONG BYUNG JIN

韓国 出身

責任感と幅広い視野

私は韓国で高校を卒業した後、鈴鹿高専の3年生に編入し、本学に入学しました。日本で学びたいと思ったきっかけは、日本の文化や言葉、特に日本製の小型通信機器などを見てかっこいいなとあこがれていたからです。技大に入学してからは電子無機材料の研究を行っており、あこがれていた機器の基盤となるものづくりが出来る喜びを感じながら研究生活を送っています。そこで、実務訓練では指導教員の先生とも相談して日本の有数の通信技術研究を行っている企業で学ぶことによって、自らを更に高めることが出来るのではないかと思います。日本電信電話株式会社(NTT)にお世話になることとしました。

現在、実務訓練生としてNTTの情報流通基盤総合研究所の中の環境エネルギー研究所において、電気通信用構造物設備の環境適合・高信頼化技術について研究を行って

います。普段何気なく使っている電話やインターネットは、日本では1890年に開始された電話サービスによって構築されてきたインフラに支えられています。NTTグループが保有する電柱は1200万本を超えており、これを保守管理するための技術開発が求められています。特に、電柱の中がどの様に劣化しているかを調べるために電気化学的な手法を適用した新しい検査手法を提案するのが私の業務内容です。会社では皆が強い責任感を持って業務に取り組んでいることを感じる事が出来ました。また、一口に電柱の保守管理技術といっても、電気だけでなく材料工学、土木工学や化学工学など幅広い知識が必要で、先輩社員の方々が色々な知識を持っていることに驚いています。今後はこの経験を大学院での研究生活に生かし、責任感を持ち幅広い視野で研究を行いたいと思っています。

技大の留学生のうち、学部生は74人、大学院修士の学生が72人、そして、何と博士の学生は83人も在学しています。最先端の技術を研究し、国内外の学会で発表し、論文を書き、博士号を得て、さらに社会で活躍していく。それをめざし、日本人学生とともに研鑽の日々を送る留学生たちがいます。



MESSAGE

03

材料工学専攻3年

シャイフル アズア ビン ロザリ

— SHAIFULAZUAR BIN ROZALI

マレーシア 出身

マレーシアから日本にUターン、大学に戻り

私が長岡に来て約2年3ヶ月になりました。日本に初めて来たのは、約12年前でした。愛媛大学に留学して学部と修士まで機械工学を学びました。その後、就職の関係でマレーシアに帰りました。日系の半導体会社でエンジニアとして仕事を始め、そして新しいことにチャレンジしたいという気持ちで大学に転職しました。大学では新しいことの毎日で、研究や勉強などが益々楽しくなりました。しかしそこで、自分自身に知識や研究への熱心さなどが足りないと感じ、また大学に戻り、もう一度勉強したいとの思いで技大に入学しました。今、長岡技術科学大学の博士課程の3年目になり、武藤睦治教授の指導の下で、マグネシウム合金の腐食環境の中での疲労き裂進展特性について研究をしています。

マグネシウム合金は世の中で一番軽い金属であり、様々なもの、特に構造物の軽量化のために使用されることが期待されています。その

中で自動車や飛行機などの燃費の効率をもっと上げるためのひとつの手段として考えられています。しかしながら、マグネシウム合金は腐食に弱いという特徴があり、繰り返し荷重が同時に作用すると、事故の原因になる恐れがあります。そこで、このような破壊に影響を及ぼす要因や破壊機構などの理解が重要になります。この研究の結果を平成21年6月にマレーシアで行われた国際学会で発表しました。参加者から様々な質問や意見などをいただき、大変参考になりました。また、平成21年10月5日に文部科学省の坂田事務次官が来学された際にも研究の成果を説明するチャンスをいただき、大変興味深く聞いていただくことができました。

マレーシアに比べて日本の研究能力と技術は非常に高いので、将来、日本と共同研究ができればいいと思います。



日本電信電話株式会社 情報流通基盤総合研究所 正門前



実務訓練先の齋藤 博之 博士(情報流通基盤総合研究所 主任研究員)とのディスカッション風景



実務訓練において実験で使用している装置と測定データ例。電柱を模した鉄筋入りのコンクリートの中のインピーダンス測定を行い、その結果から環境に配慮した長期間信頼性の電柱の内部構造評価を行います。



坂田事務次官の前で研究の成果を説明しています。



色んな国からきた研究室のメンバー、国際的だ。



マレーシアの国際学会で研究室のOBとの再会。



9月ごろ研究室の見学、研究室のメンバーの一部。

勉強だけではありません。技大祭でもおなじみのように、技大にはたくさんのクラブ・サークルがあります。その活動に参加して、充実した学生生活を送る留学生もいます。



MESSAGE

04

環境システム工学課程2年
レー ティ ラン
LE THI LANH
ベトナム 出身

心壁を乗り越えて!

昨年、私は初めての9月入学学部生として技大に入りました。9月入学学部生は私一人だったので、ほとんどのクラスで一人で勉強し、同期の学生たちとの間に壁があるような思いがしました。

そこで、貴重な大学時代に人とつながりを持ち、何か役に立ちたいと思い、ボランティアサークルに入りました。サークルでは、災害復興支援をしたり、農家の手伝いをしたり、周辺地区のお祭りに参加したりと他大学と交流することも多いです。

先日、市内の障害のある子供たちの所に遊びに行きました。子供たちは言葉で意思をうまく伝えられませんが、傍にいて、心が温か

くなり、忘れられない時間を過ごすことができました。微力ながらも確かに役に立つことができましたと思っています。いつも留学生を支えてくれているむつみ会を通して、地元の皆さんとの交流活動にも参加しています。

様々な人々と一緒に楽しい時間を送ることで、周りの人との心の壁がなくなり、他人に対する私の考え方も成長したと思います。人と人がつながることが一番大切だと実感しています。これからもボランティア活動やむつみ会を通して、社会の一員として人の役に立てるように、力を尽くしていきます。皆さんと一緒に人の輪を広げませんか？



ボランティアグループのミーティング



地元の人々との交流

技大には留学生の自主的組織・留学生会があります。また、国ごとの留学生の集まり(ベトナム・中国など)もあります。互いに助け合い、励まし合い、また、国際交流にも一役買っています。



MESSAGE

05

留学生会会長
建設工学専攻1年
チャントウォンサイ タノンデット
CHANTHAVONGXAY THANONGDETH
マレーシア 出身

長岡技術科学大学の留学生会NUTISA

本大学の留学生会(NUTISA)は、平成13年に設立され、留学生間及び日本人との親睦を図り、相互理解をより深めることを目的としています。スポーツ、文化、及び学問的な活動に関する情報交換を通して、お互いに助け合える国際的な「家族」を作ることも会の目的です。この会の目的にのっとり、長岡技術科学大学の留学生、及び日本人との交流・親睦を深めるために、留学生会が様々な交流会を開催しています。

長岡技術科学大学に滞在している留学生

数は約280人であり、出身国の数は22カ国です。新潟県内でも留学生数が多い大学です。様々な国の留学生が自分の故郷の文化を紹介するために毎年本大学において、技大祭と共催し長岡国際祭りを開催しています。その他、新入留学生を歓迎するための花見大会や留学生スポーツ大会なども積極的に行います。今後の留学生会も留学生間及び日本人の親睦をより深めるためにより多くの活動や交流会を企画したいです。



技大祭の模擬店



国際祭り

技大の留学生たちは卒業・修了後、日本や母国で、あるいは世界各地で、身につけた能力をいかに発揮し、周囲の期待に応え、活躍しています。



タンスリヤボン スリヨン

TANSURIYAVONG SURIYON

タイ 出身

- 1996年9月 長岡技術科学大学助手
- 2007年4月 沖縄高専講師
- 2008年3月 工学博士(長岡技術科学大学)
- 2009年4月 沖縄高専准教授

≫ 高専の教員として — 沖縄から —

早いもので、私が長岡から離れて、3年が過ぎようとしています。現在は沖縄高専メディア情報工学科で教育・研究をしています。

最近、私が力を入れているのは、高専の学生に情報処理技術者の資格試験を合格させることにあります。そのためにTVML(TV program Making Language)を利用して、資格試験の映像教材を短時間で簡単に作成できる方法を研究・開発しており、よい成果が出つつあります。目標は、IPA(情報処理推進機構)の次の何れかの試験を合格させることです。ITパスポート(IP)、基本情報技術者試験(FE)、応用情報技術者試験(AP)、その他全部で12種類。

IPA合格者に対して、入試優遇制度を実施している学校・大学が258校、単位認定制度を実施している学校・大学が78校あります。(平成21年3月 情報処理技術者試験センター調

べ)。また、企業からの評価も高く、日経ソリューションビジネスが実施したアンケート調査では、技術職に取らせたい資格の上位10位中9つを、情報処理技術者試験が占めていました。

高専の学生がこの資格を取得できれば、近年の高専生の進路の多様性に対応でき、就職にも進学にも有利でしょう。

一方、近年高専機構が国際交流や留学生支援に盛んに力を入れています。元留学生として、私は次のステップに本研究手法を発展させて、高専留学生に向けた学習支援に貢献できればと考えています。この場合、技大のお力を借りて今後の共同研究などの形でお願いできれば幸いです。

最後に私の個人的な趣味ですが、現在綺麗な海の近くに畑を借りて、タイの野菜にパパイヤやバナナ等を植えて南国風の生活送っています。来沖の際、案内しますのでご連絡下さい。



モハマド ザイディ アブド ロザン

MOHD ZAIDI ABD ROZAN

マレーシア 出身

- 2002年 マレーシア工科大学 講師
- 2007年 工学博士(長岡技術科学大学)
- 2009年 マレーシア工科大学 上級講師



My academic career started in 2002 as a lecturer when I joined Universiti Teknologi Malaysia (UTM). Later, I pursued my Phd under the supervision of Prof Yoshiki Mikami, Nagaoka University of Technology in 2004 and graduated in December 2007. In early 2009, I was promoted to Senior Lecturer, which later appointed as the Head Department of Information Systems in the Faculty of Computer Science and Information Systems in June 2009.

My passion in research spans towards empowering IT Technopreneurial development. As a leading engineering and technological university in Malaysia, UTM staffs are highly encouraged to be Innovative and Creative in their field of expertise. UTM tagline, Inspiring Creative and Innovative Minds, has tremendously inspired my team and me to focus more on groundbreaking ideas and innovation in our unique Master of Science IT Entrepreneurship program. As a result, two of our students have successfully won two grants, Pre-seed Fund Grant, totaling up to RM300,000 (approximately 8 Million Yen) just after 6 months of proposal submission and several evaluations.

Just recently, as a project leader, I was awarded two research grants totaling up to RM70,000 (approximately 2 Million Yen), for i) Agile Ubiquitous IT Technopreneurial Project Management Framework and ii) University Commercialization Management & Monitoring System.

I found that the experience I acquired in Japan is influencing my planning and perspective on how to perform tasks particularly in IT projects. The inspiration was not merely from my PhD topic per se, but holistically from what I experienced while living in Nagaoka, Japan for 3 years and 7 months. I am proud to be a Japanese Doctoral Graduate.



2009年3月技大の卒業式にタイの留学生たちと(筆者後列左から2番目)



情報処理技術者資格の合格証書を手に、笑顔の学生たち。



筆者が顧問をしているデジタルアート部の学生が、パソコン甲子園2009会場にて準グランプリ賞を受賞(2009年11月)。(筆者一番右)



筆者が研究している画像認識による飛行船の自律飛行が、MDDロボットチャレンジ2009大会にて受賞(2009年10月)。(筆者一番右)



International Conference

留学生にもっと日本を知ってもらいたい、多くの人達と交流を深めてもらいたい、そのために、大学もいろいろな行事を計画しています。



経営情報システム工学専攻2年
ライン ミン ウー
Hlaing Myint Oo
ミャンマー 出身

技大で繋げた友の輪

私が来日してから6年と9ヶ月という月日が経った今、振り返ってみるとそこには楽しかったことや成長できたこと等の思い出が沢山詰まっている。大阪や東京に住んでいた頃の思い出も多いけれど、その大半は技大で過ごした思い出なのだ。

毎年国際課が企画する留学生見学旅行は国際交流を深めるには最高の機会の一つである。留学生だけではなく日本人のチューターも参加でき、日本にある世界遺産や歴史的な場所を見回りながら自国にある有名な場所の話で盛り上がったり、ホテルでお風呂に入ったり、浴衣を着て部屋で自国のゲームを紹介したりと書き切れないほどの思い出がある。また、先日行われた留学生等交流懇談会に参

加した際は、去年自分がダンス部の一員としてダンスを披露したことを思い出した。

雪国で冬の寒さを耐えながらアルバイトをして学費を稼いだこともあれば、水泳部やダンス部に入って新しいことを習い、夢中になることもあった。その中で一番良かったと思うことは、多くの留学生と交流できたことである。学部3年生のとき長岡技術科学大学留学生会(NUTISA)に入り、いろいろな国の留学生と一緒にいる国際祭りや国際スポーツ大会といったイベントや交流会等を企画し、自分自身も参加して交流を深めた。

私は今年修了して技大を離れる。それが寂しく思える。



留学生見学旅行の際、日光にて留学生達との記念写真(右から4人目)



国際祭りの司会を務めた後、タイの留学生との記念写真(左から3人目)



留学生等交流懇談会 技大の先生方や学生との記念写真(後列右から4人目)

ギダイみてある記

GIDAI
MITE
ARUKI

ギダイの留学生



左からホアンさん、三井さん、山田、ウルデリコさん

ギダイみてある記 取材班
機械創造工学専攻1年
山田健太(富山高専出身)
機械創造工学専攻1年
三井悠生(富山高専出身)

取材に協力してくれた留学生
研究生
Ulderico Spadavecchiaさん
(ベネズエラ)
機械創造工学専攻1年
Vu Le Hoangさん(ベトナム)



研究室でのクリスマス会



留学生に弥彦神社を案内



留学生スポーツ大会



留学生のお別れ会



国際留学生フォーラム交流会の様子

我が長岡技術科学大学では積極的に外国人留学生を受け入れており、22の国・地域から285人が在籍しています。これは全学生の約12.4%となっており、国内の大学の中でも非常に高い数字です。おそらく研究室やサークルで話す機会もよくあるでしょう。ここでは2名の留学生を紹介したいと思います。

Ulderico Spadavecchiaさんはベネズエラのシモン・ボリバル大学が技大と姉妹校であるという縁から留学することを決めました。一度は帰国したものの、技大でやっていた研究に面白みを感じ、日本でさらに学ぶために

研究生として戻ることになりました。長岡での生活にとっても満足しているようです。それでも日本人の時間を厳守する習慣には今とても驚くそうです。

Vu Le Hoangさんはベトナムのハノイ工科大学と技大のツイニングプログラムを経て、2007年に編入しました。実験装置等の設備が充実し、先生方の熱心で厳しい指導により、成長できる喜びを感じているそうです。

やはり留学生にとって日本語の習得はとても難しいようですが、今では彼らは互いに日本語でコミュニケーションを取れるくらい日本語が

達者です。

彼らは休日や空いた時間には体育館でフットサルをしたり、地域住民の方々の主催する「むつみ会」で日本の文化を学んだりと日本での生活を満喫しているようです。

留学生と交流することによって互いの文化を理解することは、私たち日本人学生にとっても良いことであり、筆者らも一緒に勉強をし、パーティーや遊びを楽しむことを通じて少しは国際感覚が身に付いたかと思います。

彼らの卒業後は日本国内で就職する人もいれば、留学経験を母国で生かす人もいます。

学士力の探求



来館者への展示品説明

テクノミュージアムを利用した人材育成 「魅せながら学ぶ」ミュージアムへの進化

機械系 准教授 **武田 雅敏**
MASATOSHI TAKEDA

長岡技術科学大学テクノミュージアム「てくみゅ」は、コミュニケーション力や課題解決力等のいわゆる学士力（我々はコンピテンシーと呼んでいます）を養う場として進化しています。本学の研究成果の紹介がミュージアムの主な役割ですが、同時に、小中学生を含めた一般の方と接する貴重な場でもあります。教員も学生も、学会等で専門家に対して説明することには慣れていますが、一般の方に分かり易く説明するのは意外と難しいものです。そこで私たちは、展示品製作や説明員とし

てミュージアムの運営をサポートしてくれる学生を主な対象として、「接遇マナー」「ブレインストーミング」「マインドマッピング」「企画書作成」などの講習会を開催してスキルアップを図っています。また、教員が作成した説明文の添削や、より魅力的な展示品製作、技大祭やオープンキャンパスでの説明といった活動を通じて、実践でその能力を更に伸ばしています。来館者の皆さんにも学生説明員の解説は分かり易いと好評です。



ブレインストーミング講習会



企画書作成セミナー



カレンダー製作の様子

魅せる

機械創造工学専攻 2 年（長岡高専 専攻科出身）
牛腸 彰
AKIRA GOCHO



私はテクノミュージアムの運営に関わるてくみゅ lab のメンバーとして活動しています。主な仕事はカレンダー等のグッズの制作（今年も鋭意制作中 !!）や美術館等のキュレーターのような、展示品の説明員などが主な仕事です。

てくみゅの展示で気をつけることは魅せ方だと私は考えています。この魅せ方というのはただ見た目を良くするのではなく、いかに関心を持ってもらえるかということです。展示方法はもちろん、説明の仕方も魅せ方の一つだと思っています。この説明員として関わっている時に私が大事にしていることは「一方通行でないこと」、「ワンパターンでないこと」です。この二つはつまらない説明の代名詞です。つまらない説明にな

らないように、私は来て頂いた方と会話をするように心がけています。会話によりその人の興味や関心、バックボーンを知ることができ、基本的な説明に加えて、その人に応じた自分なりの味付けをして説明をすることができます。最初からこの様に出来たわけではありません。各種講習会や他のスタッフとの意見、情報交換、そして何より実際に多くの方と話すことで私自身の知識や説明に対するスキルも向上しました。魅せ方を意識するよう心掛けることは就職活動の時に非常に役に立ち、てくみゅ lab で体験したことは非常に有意義でした。みなさん、普段はできない体験を通して自分を磨いてみませんか？



日本体育協会公認スポーツ少年団認定指導員講習会講義、「指導者の役割」の1コマ：コーディネーション運動に挑戦中。

総合型地域スポーツクラブとの 連携への試み

経営情報系 体育・保健センター 准教授 **塩野谷 明**
AKIRA SHIONOYA

総合型地域スポーツクラブとは文部科学省が推奨する欧米型のスポーツクラブで、近年福島大学、早稲田大学、東京学芸大学、埼玉大学等々の大学が大学のスポーツ施設の有効利用と学生の社会性教育を目的に、大学と地域・行政が一体となって設立しています。そのなかで学生は地域社会の幼児から高齢者まで多世代交流をとおり、様々なスポーツ活動・文化活動を地域住民とともにを行っています。本学では深沢・才津地区との地域連携を進めるとともに、このクラブ

設立の基盤となる学生の指導者・リーダーシップ教育を目的として毎年、体育Ⅱ、ボランティア活動基盤受講学生から希望者を、長岡市日本体育協会公認スポーツ少年団指導員認定講習会および本学が主催するサークルリーダー研修会に参加させ、本年度は認定講習会に8名、サークルリーダー研修会に11名の参加がありました。将来的にはこの中から、クラブで子供達を指導していく学生の姿がみられるはずです。



日本体育協会公認スポーツ少年団認定指導員講習会の様子。体育・保健センター 塩野谷が講師として、発育・発達、トレーニングの講義を行っている。



長岡技術科学大学学生支援課主催サークルリーダー研修会の様子。コーディネーショントレーニングによるコミュニケーションスキルアップに挑戦中。指導者は長岡市体育協会の方たち（左から4人目）。



日本体育協会公認スポーツ少年団認定指導員講習会。実技の1コマ：技大生も日頃の運動不足にめげずに、頑張っています。

「日本体育協会公認スポーツ少年団 認定指導員資格取得講習会」に参加して

電気電子情報工学課程 2 年（静岡県立吉原工業高等学校出身）
杉山 敬香
HIROKA SUGIYAMA



私は教職という進路を考えています。スポーツを児童に指導する立場の心得というものに興味があって今回の講習会に参加しました。私自身スポーツを本格的にしたことがなく、今後スポーツを指導する機会があるかはわかりませんが、この講習会を通じてなんとなく気をつけていかなければならないことがわかったような気がします。

講習会ではスポーツの影響から医学的知識、文化などを学びました。一番印象に残っている講義は栄養学のお話です。講師の方が運動後の水分補給について、指導する側の間違った知識で水分不

足に陥ってしまう危険性について熱く語っていました。この真剣さが指導する側には必要なのだと思います。児童の持つ能力を伸ばしていく一方で未来を壊してしまうこともあるということをいつも念頭に置かなければなりません。

試験については講義の中で出題される箇所を丁寧に説明されていたので無事に合格することができました。この経験を何かに活かすことができましたら嬉しいです。

長岡の歴史探訪

【江戸時代編】

生物系 准教授
高原 美規
YOSHINORI TAKAHARA



長岡城下古地図



雪の蒼柴神社

越後の雄藩 長岡の繁栄

戦国が終わり豊臣秀吉の天下になると、上杉・長尾家は会津へ移され、豊臣恩顧の堀直^{なおより}奇が入府します。栖吉城はすでに廃城で、蔵王堂城に入ったのですが、信濃川の水害のため、新たに長岡に築城を始めます。蔵王からは、幅広く長い岡に見えるため、長岡の地名となったとも言われます。

徳川の時代になると堀氏は転封となり、徳川家譜代の牧野氏が、長岡城の築城を引き継ぎ、7万4千石の大名として長岡の地を治めます。長岡城は戦国が終わって築かれた政庁としての平城で、戦への防備は手薄でした。長岡の質実剛健な気風は三河武士の牧野家の時代に作られたものです。

長岡藩は、長岡だけでなく北前船の寄港地、新潟を藩領とし、佐渡の金を江戸に運ぶ三国街道も押さえ、商工業を振興し、実高では14万2700石の有力な藩でした。9代藩主忠精の長男は、寛政の改革を行った松平定信^{ただきよ}の娘婿で、長岡藩主は忠精から三代にわたり幕府の老中を勤めました。

蒼柴神社は、長岡藩中興の祖、3代藩主^{ただとき}忠辰を蒼柴明神として祀る神社です。忠精の時、悠久山に東照宮を模した権現造りの社殿を建て、長岡城内の社から遷座されました。社殿は建立以来のもので、盛時の長岡藩の勢威を偲ぶことができます。

長岡技術科学大学のロゴマークを制定しました



マークの主旨

常にしなやかで、
しかも時代に敏感な鋭い発想を持ち、
愛情と情熱を持って
地球環境を考える大学を表現しています。
長岡の「N」がモチーフです。

カラーの主旨

鋭くしなやかに天に伸びている爽やかな「青」い色は
環境を表現し、それを包み込んでいる「赤」は、
常に地球環境の全てを
愛情と情熱を持って考える大学であることを
表現しています。

新しいロゴマークの制定について

副学長(国際交流担当)
ロゴ作成ワーキンググループ主査 渡邊 和忠

8年半程前、本学に着任し、初めて実務訓練生を海外に派遣する際に相手先から正式なレターヘッドのついた依頼状を要求されたことがあり、事務に依頼したところ正式なものはないと聞かされて、大変、驚いた憶えがあります。それ以来、何方かが作られたものを拝借して使用しましたが、ずっと不思議に思っていました。国際交流担当を命じられた際に、偶々、学術国際委員会でレターヘッドを作成する話が進行しており、それを引き継ぐことになりました。その際、本学にはロゴマークがなく、多くの教職員は名刺等に大学旗のデザインを使用していると聞きました。そこで、大学も30周年を迎え良い機会でもあるので、ワーキンググループを立ち上げてロゴマークから作成しようと云うことになりました。その後、大学の正式の校章が制定されていたことを知りましたが、殆ど使用されていませんでした。

学内で公募し幾つかの案が出され、技大祭などで投票して頂きましたが、決定打がありませんでした。長岡造形大学の豊口協理事長(本学・監事)に相談したところ、グラフィックデザイナーとして数々の賞を受賞し活躍されている福田毅先生を紹介して頂きました。福田先生が提案された100程の案を対象に、改めて学内、及びオープンハウスで来ていた高専生などに投票してもらい、その結果を参考に福田先生が30程度に絞り、更に技大祭において投票を行い、4つの案までに絞って頂きました。最終的には新原学長にお願いして、その中から長岡のNをモチーフに、シンプルで、明るく親しみのもてるものをロゴマークとして選んで頂きました。これらの過程で、ワーキングのメンバーだけでなく、多くの方々のご協力・ご尽力を頂いたことに心から感謝しております。

ロゴマークを決定して行くプロセスで福田先生からはデザインについて多くのことを教えて頂きました。中でも大切なことは、「ロゴマークだけで直ぐに長岡技術科学大学と判るようにしなければならない。そのためには、大学から発信するもの全てに1つのロゴマークだけを使用し、大学のイメージを焼き付ける必要がある。」ということでした。確かに、本学では校章にしても大学旗のデザインにしても、必ずしもそのような意識で使用していなかったように思います。現在、福田先生が、ロゴ使用のためのマニュアルと共に、名刺、パワーポイント、封筒などロゴの入った鋳型を作成しておられますので、近いうちに皆様が大学のホームページからダウンロードして様々な場面で簡単に利用できるようにする予定です。このロゴマークが皆様に愛され、末永く使用して頂けるものであることを願っています。

トピックス

TOPICS

新着ニュース

2010.01.7-8	大学教育改革プログラム合同フォーラムに出席しました。
2010.01.07	e ラーニング高等教育連携(eHELP)全体会議を開催しました。
2009.12.24	JENESYS プログラム日本語発表会を行いました。
2009.12.09	長岡技術科学大学ロゴマーク発表記者会見を行いました。
2009.12.09	平成21年度長岡技術科学大学留学生等交流懇談会を開催しました。



JENESYSプログラム日本語発表会